

良知館通信 ⑤

山本 義雄

心ふるさと藤樹書院は、上小川集落の中ほどに位置する。敷地の南寄りに書院、南西に表門その北側に土蔵がある。

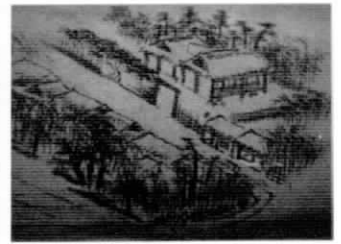


藤樹書院の正門の変遷を時代をさかのぼり調べてみると、「藤樹書院の歴史」の中に延享四年

(一七四七)百年祭に正門建立とある。この時の門は、妙専寺から東へ進み、藤樹書院の境内で熊沢蕃山入門懇願の跡付近と考えられる。現在、藤樹書院を訪れた人のシンボルとなる。記念写真位置の藤樹書院の四足門を新門と称されるのは、弘化四年(一八四七)藤樹先生二百年己辰祭に際して新たに建立。

明治十三年(一八八〇)の上小川村の大火で講堂は類焼したにも関わらず、この門と隣接する土蔵は幸いにも災禍を免れた。

このことは、分道家の家臣で江戸留守居役、三宅頼母の娘である餃子が関係する。江戸で誕生した餃子は明治十四年(一八八二)四月十二



日次男延之輔を伴い大溝の地に里帰りした。餃子は二宮尊徳の嫡男弥太郎(諱尊行)の妻である。延之輔は

この記録を「江州紀行」として書き残している。

「書院祝融の災い罹り、昨年灰燼となり今遺るものは、門屋と藤樹となり」と記述がある。又、明治四十一年(一九〇八)に藤樹先生贈位報告、常省先生二百年祭が行われた時、表門の藤のご紋の傷みがひどくケヤキ一枚板の修復として鏡板が作られる。



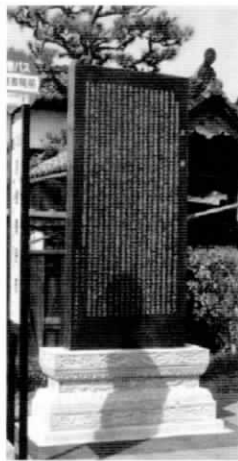
この鏡板の寄進は、藤樹先生の研究家、前神戸大学教授の森信三先生である。先生は国民教育者で実践人の家を主宰された。「人生二度なし」という有名な言葉がある。

書院正門前にかげられた石の太鼓橋は、平成十四年ころに改修された。門前左側にある美形の松は、樹木の状況からみて百二十年位経つものと推定される。

藤樹先生にまつわる石碑② 藤樹書院前の「孝経」碑

上田 藤市郎

藤樹先生は、三十三歳の夏、孝経の意味深長なことに感激され、それ以来、毎朝、夫人と共に孝経を拝誦された。藤樹書院では今も「講書始め」と「常省祭」に孝経が拝誦される。孝経の文「孝は徳の本なり」に由来して、江戸時代光格天皇が藤樹書院を「徳本堂」と命名された。この石碑は、藤樹先生生誕四百年



に際し、藤樹先生の直筆「心画孝経」の字体を手彫りで刻字したものである。孝経の冒頭に出てくる、仲尼(孔子)の生誕地、中国、山東省、曲阜の石匠が、孝経全体の約半分九百字を彫刻した。孔子の高弟、曾子の故郷、山東省、嘉祥県の石材で、幅一七〇、奥行十五、高さ二八〇センチ、重さ五トンである。高島市内、県内、全国の約二七〇名の有志賛同者の寄付によって建立された。総額二一〇万円余である。特に中国山東省の曲阜や嘉祥県の會慶淳氏ら関係者の絶大な協力の結果である。
平成二十年四月二十日、論語普及

会学監、伊與田覺氏を迎えて除幕式が行われた。
※伊與田覺氏は平成二十八年十一月二十五日百一歳で逝去された。



賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます

◎税理士法人・小畑会計事務所

(新規会員 高島市新旭町旭)

○ウエストレイクホテル可以登楼

○株式会社 大山建設

○株式会社 桑原組

○有限会社 宏和商事

○有限会社 白浜荘

○社会福祉法人 新旭のみり会

○ソエダ 株式会社

○株式会社 TADコーポレーション

○鉄屋商事 株式会社

○株式会社 戸井薬局

○とも栄 藤樹街道本店

○中村印刷 株式会社

○株式会社 中村測量設計

○ニッケイ工業 株式会社

○八田建設 株式会社

○有限会社 馬場塗装

○三田村印刷 株式会社

○有限会社 綿庄食品店

(五十音順)